

平成30年度 東京都立中野工業高等学校(全)学校経営計画

校長 鴻野 誠

目指す学校

本校は真に自立した社会人の育成を目指す学校である。そのために、「あいさつを大事にして職業人としての立ち居振る舞いができる生徒」、「就職・進学試験に合格できる学力の定着」を育成目標として掲げ、キャリア技術科の特色を生かして、教職員が学習指導、進路指導、生活指導、自立支援等に組織的に取り組む学校を目指す。

具体的な学校像

- 1 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、命に関わる重大事故やいじめ・体罰の無い学校
- 2 産業界や関係機関から信頼され、ものづくりをとおして社会に貢献していく人材を育てる学校
- 3 法令を守り社会規範、社是・社訓、就業規則の内容を理解し適正に職務を遂行できる態度を着実に身につけさせる学校
- 4 将来、就業先で上司から指示、指導・助言された内容を素直に履行できる態度を育てる学校
- 5 仕事を中心とした社会生活を送ることができる体力や働く力を身につけさせる学校
- 6 書類作成上必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を繰り返し、着実に身につけさせる学校
- 7 挨拶を基本とする社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身につけさせる学校
- 8 日本国の一員として納税の義務を果たし、社会に貢献できる社会人を育てる学校
- 9 基本的な生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった人間を育てる学校
- 10 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- 11 教職員が一丸となって生徒に必要な態度と能力を身につけさせる学校
- 12 保護者・地域社会から信頼され、保護者・地域社会と一体となって教育が推進できる学校
- 13 教育活動の円滑な実施に向け自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- 14 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- 15 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- 16 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

中長期目標

平成38年度を目途に校舎の全面改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。
 本校の教育課程に設置された機械科目、食品工業科目、工業化学科目の特色を出し、新たに工業科目として電気工事関係、環境設備関係科目、物流関係科目、品質管理科目等の導入の検討を継続させ、次世代の産業構造と産業界から求められる人材を育成するための教育を創造する。また、東京都の都立高校改革推進計画・新実施計画に基づき、校舎の改築及び施設・設備の改修の検討を進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持される学校づくりを推進する。

方策

- 1 地域の関係団体及び企業、都民などへのニーズを把握するとともに、東京都中小企業振興公社、東京都商工会議所等の協力を得て、社会や産業界からのニーズに応えられる学校を開発する。
- 2 平成38年度完成予定の改築の基本計画に基づいて、東京都、中野区、地域社会、学校が連携し、地域住民の理解と生徒の教育活動を維持・発展させながら着実に進めていく。
- 3 全面改築工事の基本計画実施に向けて、改築委員会を中心に東京都、設計関係企業と連携し、将来の工業高校の姿をイメージした設計を行い、安全で確実な工事の実施を図る。

今年度の重点目標

具体的な方策

1 オリンピック・パラリンピック教育の推進

- 1 全ての教育活動をととしたオリンピック・パラリンピック教育の充実
- 2 オリンピック・パラリンピックの理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

大会の意義や歴史、文化的なかかわりについて学ぶ全ての教育活動を年間授業計画に位置付け、学校全体で組織的、計画的に取り組む。体力テスト実施に向けて年度当初から取り組み、都の平均値を超えるように努める。

2 エンカレッジスクールとして着実な教育活動の実施

- 1 YSWと連携を図った中途退学対策事業の推進
- 2 進級・特別指導規定等校内規定の弾力化
- 3 中途退学ゼロ
- 4 特別指導件数5件以内

自立支援事業継続校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。校内規定等の弾力化を進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

3 キャリア教育の充実

- 1 一人一社企業訪問を目指す。
- 2 1学年企業見学(100%)
- 3 2学年インターシップ参加(100%)
- 4 3学年進路決定率(100%)

体系的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京都商工会議所との連携による企業開拓等を実施する。工業系大学との協定等、大学進学への進路開発を行う。

4 生徒のチャレンジの支援

- 1 生徒をもっと外に出せ！キャンペーンを展開し、新たな課題に挑戦した生徒を賞揚する。
- 2 部活動、地域貢献活動、資格取得、研究発表等の支援

部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。

5 新学習指導要領に基づく学力観の転換と教員の授業力向上

- 1 アクティブラーニング推進校としての研究の実施
- 2 教員の相互授業観察(年間2回)
- 3 教員のICT活用授業率(90%以上)
- 4 生徒による授業評価で「分かりやすい」回答率(90%以上)

アクティブラーニング指定校としての研究と教科横断的な授業改善を実施し、カリキュラムマネジメントを教科全体で進める。同教科、異なる教科各1回相互授業観察を実施し、ICT活用授業を学期に1回、年3回実施させる(授業観察、学校評価等で確認す

6 主権者教育の充実

- 1 全ての教育活動をととした主権者教育の充実
- 2 主権者としての理解と啓発
- 3 体験的な活動の実施

生徒会選挙や区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身につけるための活動を実施する。

7 教職員の働き方改革とサービスの厳正

- 1 職務の共有化・個別化、職務の質的転換
ライフ・ワークバランスの推進
- 2 服務事故防止研修の意図的、継続的、計画的な実施

ICTの活用、定期考査の統一問題化を進める。職務をスケジュール化し、効率的に行う体制をつくる。服務事故防止研修をはじめ、社会、他校での事故を教訓にして、未然防止の意識を醸成する。

	今年度の取組目標	具体的な方策
学校経営推進部	1 学校経営マネジメントの強化 2 学校経営計画の重点目標の実現 3 アクティブラーニング推進校としての取り組み 4 副校長校務の支援	1 学校経営推進部を月2回実施して、学校経営計画を戦略的に推進していくための進行管理を行う。 2 エンカレッジスクール初年度における、重点目標実現のために分掌・学年・各類型・各教科・各委員会が横断的に取り組むための連絡調整を行う。 3 アクティブラーニング推進校の取り組みとして、本校での研究授業を5回以上実施する。 4 副校長業務や多様化・複雑化する学校経営上の課題に対し、構成員が補佐機能を発揮し学校として一体的に対応する。
総務部	1 改築工事に向けての進行管理 2 広報活動の充実 3 防災教育の充実 4 「エンカレ通信」の充実	1 H38年の完成予定の改築に向け、業者との会議事項を各分掌、学年に伝達し、円滑に改築工事の進行管理を行う。 2 5月までにリーフレット・パンフレットの内容を完成し、夏季休業中の中学校訪問等で倍率確保のため広報活動を充実させる。 3 避難訓練を年4回実施し、防災対策支援隊を活用し、地域と連携した宿泊防災訓練を9月に行う。 4 学校見学会、合同説明会、学校説明会、体験入学を行わない地域の行事等に積極的に参加するとともにHPで「今日の中工」を毎日更新し、月1回の「エンカレ通信」を発信する。
キャリア技術科	1 工業三類型の教育課程の開発 2 戦略的な企業開拓 3 資格取得への取組み 4 産振備品、薬品等の計画的な廃棄 5 産業教育設備等の効果的な活用	1 エンカレッジスクール教育課程の工業科目と学校設定科目を研究し各類型間連携のもと検討し、6月までに決定する。 2 5月までに、過去の就職実績・定着率の高い企業や新規で企業を開拓し、管理職と20社の企業訪問を行う。 3 長期休業期間中に資格取得の講座を集中的に行い、計算技術検定3級1年生全員受検、2級にもチャレンジさせる。 4 各類型で廃棄すべき産振備品、薬品等の分量を把握し、改築に向けて計画的な廃棄を行う。 5 所有する産振設備を十分活用し、生徒の興味・関心を引き出すとともに、生徒の技術・技能の向上を図る。
教務部	1 教育課程の適正な実施 2 諸帳簿の適正な管理 3 入学者選抜の実施内容の検討 4 エンカレッジスクールにおける学校設定科目の編成 5 校内規定の検討	1 各教科等と連携し、教育課程届に基づいた教育課程の適正な実施のため連絡・調整を行う。 2 各学年の指導要録の電子化作業において、生徒の個人データの入力、確認方法を示し、完了までの進行管理を行う。 3 キャリア技術科の募集に向けて実技検査、調査書、面接観点別評価等の配分を検討し、11月までに決定する。 4 6月までにエンカレッジスクールに伴う新たな学校設定科目と使用教室の調整を進め、学校設定科目を決定する。 5 校内規定を検討し、弾力的な運用を図る。また、成績不良者を支援するための補習・補講の校内体制を構築する。
生徒部	1 学校チームとして一体となった指導の確立 2 基本的な生活習慣の確立 3 オリンピック・パラリンピック教育の推進 4 地域社会との連携による社会貢献活動の充実 5 部活動合同合宿の実施	1 5月までに生徒指導規定を職員に示し、同じ基準の指導内容で指導を行う。 2 登下校や遅刻指導・校外巡回のほか、身だしなみ指導等を企画立案し、組織的かつ継続的に行う。 3 6月にアスリートによる実技講習会、11月に医者による講演会を行い、東京開催に向けた意識向上を図る。 4 学校・地域・社会の一員としての帰属意識を育成するため清掃活動・野方地区まつり・野方地区懇談会・中部フェスタ等の地域活動の参加計画を作成し、教員も積極的に参加する。 5 8月に、部活動合同合宿を実施する。
進路指導部	1 キャリア教育の充実 2 産業界との連携によるキャリア講座の実施 3 インターンシップの拡充 4 就職試験に向けた取組 5 定着率・離職率の調査の実施	1 入学から卒業後までをワンパッケージ化したキャリア教育の全体計画を周知・具現化するため全教員で指導を行う。 2 11月に1学年の企業見学会を行い勤労観・職業観を育成し教員の社会体験研修を行う。 3 11月に2学年全員のインターンシップを5日間実施し、12月にインターンシップ報告会及び連絡協議会を行う。 4 3学年の7月までに、就職用一般常識問題等進路課題、面接指導に取り組ませ、夏季休業中に就職試験対策講習会を実施し進路決定率100%を目指す。 5 10月までに今年度卒業した生徒を対象に、定着率・離職率を調査・検証し、分析結果を在校生の自立支援事業につなげる。

	今年度の取組目標	具体的な方策
第1学年	1 学年の指導体制の構築 2 中途退学防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	1 4月に学年の組織目標、学級の目標を作成し、達成に向けて他の分掌と連携し、いじめや体罰の無い学年を目指す。 2 教科担当、生徒部、SC、YSW等との連携により、生徒情報の共有を図ることで、全員進級を目指す。 3 保護者との協力体制を構築し、生徒の自己肯定感を高め未来をつかむための意識を育てる。 4 生徒部と学年が連携し服装・頭髪指導等の継続的な指導の徹底を図る。 5 キャリアガイダンスを通して、生徒が自らの適性を探し身につけさせ、企業見学会に全員参加をさせる。 6 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率100%以上を目指す。
第2学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	1 4月に学年の組織目標、学級の目標を作成し、達成に向けて他の分掌と連携し、いじめや体罰の無い学年を目指す。 2 教科担当、生徒部、SC、YSW等との連携により、生徒情報の共有を図ることで、中途退学率ゼロを目指す。 3 保護者との協力体制を構築し、生徒の自己肯定感を高め未来をつかむための意識を育てる。 4 生徒部と学年が連携し服装・頭髪指導等の継続的な指導の徹底を図る。 5 進路指導部との連携で5日間のインターンシップ、進路ガイダンスに100%参加させ、生徒の進路適性を把握させる。 6 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率100%以上を目指す。
第3学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する検討 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化	1 4月に学年の組織目標、学級の目標を作成し、達成に向けて他の分掌と連携し、いじめや体罰の無い学年を目指す。 2 教科担当、生徒部、SC、YSW等との連携により、生徒情報の共有を図ることで、中途退学率ゼロを目指す。 3 保護者との協力体制を構築し、生徒の自己肯定感を高め未来をつかむための意識を育てる。 4 生徒部と学年が連携し服装・頭髪指導等の継続的な指導の徹底を図る。 5 進路指導部と連携し、生徒の適性を把握し、面接や書類作成指導を充実させ、進路決定率100%を目指す。 6 学校への帰属意識を持たせるため行事への参加率100%以上を目指す。
機械類型	1 授業や実習を通じて規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをととした職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	1 実習朝礼で挨拶の励行や実習服などの身だしなみ指導・言葉遣いの改善、さらに時間を守る意識の向上を図る。 2 ガス溶接技能講習・基礎製図検定・機械製図検定などの資格取得を推進し、体験Ⅱの実施科目を6月までに決定する。 3 授業を通して製品を作り、発表、展示をすることで充実感を与え、物を作るやりがい育てる。 4 工場見学や施設見学を実施し、働く人の姿を見ることにより社会人として自立する意識を高める。
食品工業類型	1 授業や実習をととした規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをととした職業人の育成 4 企業・外部施設・人材の活用	1 実習朝礼で挨拶の励行や実習服などの身だしなみ指導・言葉遣いの改善、さらに時間を守る意識の向上を図る。 2 食品衛生責任者・初級バイオ技術者・情報技術関連検定などを進め、体験Ⅱにおける学校設定科目を6月までに決定する。 3 授業をととして製品を企画・開発して作り上げ、文化祭や地域のイベント、中部フェスタ、家庭クラブ東京大会で製品を売る。 4 工場見学や施設見学をするとともに働く人の姿を見て社会人としての意識を高める。外部講師を導入する。
工業化学類型	1 資格取得の奨励と進路意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをととした職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	1 実習朝礼で挨拶の励行・実習服など身だしなみ・言葉遣いの改善・時間の意識の向上を図る。 2 eco検定・危険物取得者・初級バイオ検定などを進め体験Ⅱにおける学校設定科目を6月までに決定する。 3 授業をととして実習・実験の研究をおこない、文化祭や地域のイベントで研究発表をする。 4 工場見学や施設見学をするとともに働く人の姿を見て社会人としての意識を高める。

	今年度の取組目標	具体的な方策
各教科	1 資格取得と検定受検の促進 2 授業や実習における規範意識の向上 3 エンカレッジスクールの評価と計画の促進 4 次期学習指導要領に基づく授業改善 5 オリンピック・パラリンピック教育の充実	1 授業を通して各種資格取得の興味・関心を高めて受検させ、達成感を味わわせて、高度な資格取得にチャレンジさせる。 2 各授業で授業規律三箇条を徹底し、時間を守り、授業マナーの向上を図る。 3 観点別評価に基づく評価・評定を実施し、さらなる検討を行い中途退学防止に努める。 4 アクティブ・ラーニング推進校として、他校の授業を見学し授業改善の取組を進める。 5 大会の意義や歴史、文化的なかかわりについて学ぶ授業を年間授業計画に位置付け実施する。
経営企画室	1 学校経営状況の把握と分析 2 学校経営参画の推進 3 適正な事務運営 4 施設・設備の保安全管理 5 校舎改築準備の適正管理	1 学校経営状況の達成状況を検証し、必要な情報を収集分析する。 2 教職員と連携し、行政視点をもって相互に課題の解決に取り組む。 3 学校経営計画を把握し、根拠や規則に基づいた事務処理を行い、日常的に業務進捗確認を確認する体制を築く。 4 設備点検を定期的に行い、劣化・破損・故障箇所等の速やかな状況の整理と対応を行う。 5 校舎改築基本設計作業に遅滞がないよう適正な進行管理を行う。
改築委員会	1 改築工事に向けた検討 2 地域住民との連携と協力 3 エンカレッジスクールの進行管理	1 設計業者と連携し、全工程を把握したうえで施設・設備の図面や構造を8月までに作成して、12月までに基本設計を完成させる。 2 都と連携して改築工事に向けた説明会を6月までに実施し地域住民の要望や意見を把握したうえで町内会、自治会と協力したうえで進めていく。 3 生徒の安全面に配慮した教育活動の維持に努める。
教育課程委員会	1 学校課題の抽出・課題解決策の検討 2 教育課程の実施に係る検討 3 新たな学校設定科目の設置	1 エンカレッジスクール完成年度に向けた教育課程について検討を進めていく。 2 新たな教育課程を実施したうえで、課題があれば抽出し12月までに改善策を提案する。 3 ものづくりや資格取得にかかわる教育活動を通して新たな学校設定科目を7月までに決定する。
類型選択指導委員会	1 類型選択指導計画の策定と実施 2 コース選択指導の実施 3 生徒の適性に応じたコース選択の実施	1 昨年度の指導計画の課題をまとめ、5月中に対応策を検討・立案し、三類型と1学年で共有・実施。6月までに説明資料作成。 2 類型と連携し、生徒にコース選択に必要な情報を授業を通じ提供し、7月に第1回類型選択希望調査と適性検査を行う。 3 学年と連携して、第2回希望調査を11月末に行い、面談や適性の結果、2学期までの成績を総合的に判断して行う。
図書運営委員会	1 図書資料の計画的な収集・整理・保管・提供 2 生徒の読書活動の推進のための図書館利用の促進 3 受託者(業務責任者)への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営	1 図書選定基準に基づき、自ら学ぶ意欲を向上させるために年間を通してに蔵書を充実させる。 2 図書リクエスト制度の活用や8月に「読書週間」を設定し積極的な広報活動を行い、図書館利用率を向上させる。 3 仕様書等契約関係図書および図書館管理運営方法に関する詳細を定めた「図書館マニュアル」に基づき業務指示を行う。
教科書選定委員会	1 平成31年度選定教科書の調査研究 2 委員会の適正な開催 3 適正な教科書選定	1 学習指導要領の各教科の目標等を踏まえ、各教科書の特徴や違いが明確にわかるよう、調査研究を行う。 2 7月までに3回開催し、教科書の内容や構成について高等学校用教科書調査研究資料等を活用し検討する。 3 各教科と連携を図り教科書の調査研究結果及び生徒の実態等を踏まえて、最も適切な教科書を選定する。
学力向上推進委員会	1 就職試験・大学受検に合格する学力の定着にむけた授業力向上 2 生徒の学力を正確に把握し、基礎学力の定着を図る 3 生徒授業評価の実施	1 相互授業参観を企画・立案し、教員間で指導法を学び反映したものを長期休業中に活かし、補習・補講を行う。 2 1年生に新学力テストを年3回実施する。2学期に基礎力診断テスト、3学期に学力調査・進路対策テストを実施し、結果を調査、分析し全体で共有する。 3 昨年度の生徒による授業評価を検討し、教員の授業力向上に活かし、今年度も昨年同様の授業評価を実施し、分析する。

	今年度の取組目標	具体的な方策
SC・YSW・いじめ対策委員会	1 スクールカウンセリングの充実 2 特別な支援を要する生徒指導の充実 3 校内研修の充実 4 自立支援チームとの連携 5 いじめの早期発見 6 いじめ防止策の充実	1 スクールカウンセラーによる全員面接を4月から実施し、学年生徒部と連携した円滑な相談体制を確立する。 2 生徒情報シートの活用の徹底を図り、支援を要する生徒の学校生活支援カードを作成し、組織的な支援体制を確立する。 3 生徒への指導力向上、SC・YSW・外部講師を活用した中途退学防止等に関する校内研修を年2回実施する。 4 定例会を毎月第三水曜日に実施し、YSW、SC、学年、生徒部関係機関が連携し自立に向けた支援体制を確立する。 5 いじめ早期発見のため、月1回いじめ認知件数を確認し年3回のいじめに関するアンケートを実施する。 6 定例会で情報共有を図り、学校いじめ防止指針に基づいていじめの未然防止に対応する組織を整備する。
安全衛生委員会	1 職場における安全衛生に関する検討 2 職員の健康維持	1 月1回の安全衛生委員会を実施し、指摘した箇所の改修設備を検討する。 2 空気環境測定を継続し、換気や加湿器の使用を徹底し職員の健康維持に関する職場環境の改善を図る。
学校保健委員会	1 生徒の健康づくりの推進 2 学校医等と連携した生徒の健康促進の検討	1 一斉健診を踏まえ生徒状況を把握したうえで、年間の保健計画を立案して実施をする。 2 学校医、学校薬剤師と連携し、本校生徒の健康課題を取り上げ、健康の保持増進について検討する。
入選委員会	1 現行の入学者選抜方法の検証 2 実技検査の作成	1 今年度の入学生の状況を把握し、実技検査の内容を8月までに検討し、検討したうえで作成する。 3 昨年度の実技検査と比較しながら31年度の実技検査を10月までに作成する。
ICT委員会	1 ICT機器の点検 2 ICT機器の利用に関する検討	1 ファイルサーバーを適切に運用し、ICT機器の点検を行い機器の維持管理の対応をする。 2 ICT機器の利用率を上げていく。
学校サポートチーム	1 スクールカウンセリングに関する検討 2 いじめに関する検討 3 YSWIに関する検討	1 月1回の定例会で情報共有と生徒対応の研修を行い良い教育環境を維持し、研修会を継続実施する。 2 いじめアンケート・ストレス度自己診断テストを実施し職員の情報共有化を図り、いじめの早期発見をする。 3 自立支援チーム継続派遣校として就労支援や卒業後の支援について一層の周知を図り支援体制を整備する。
防災教育委員会	1 学校安全計画の検討 2 保護者、地域との連携の検討	1 保護者、地域と連携した防災教育の企画実施を検討する。 2 実施した防災教育の反省と次年度に向けた改善を検討する。
人間と社会委員会	1 自己の在り方・生き方観の醸成 2 インターシップによるキャリア教育の充実	1 道徳教育の充実を図るため、4つの章より演習テーマから効果的な演習教材を開発し、振り返り学習につなげる。 2 進路指導部を支援しながら、2学年全員を対象に行い、インターンシップの指導で生徒の勤労観・職業観を育む。